

令和元年度 第1回地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会

1. 日時

令和元年7月29日（月） 14時00分～15時00分

2. 場所

下関市立市民病院 2階 講堂

3. 次第

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

(3) 委員長互選

(4) 議題

- ・平成30年度に係る業務実績に関する評価結果（案）について
- ・第2期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果及び中期目標期間終了時の検討結果（案）について
- ・第3期中期目標（案）について

(5) 閉会

4. 配布資料

- ・令和元年度地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会 席次表
- ・平成30年度に係る業務実績に関する評価結果（案）
- ・第2期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果及び中期目標期間終了時の検討結果（案）
- ・第3期中期目標（案）
- ・資料1 地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会 委員名簿
- ・資料2 地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会条例
- ・資料3 地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会運営要綱

5. 議事録（概要） ※次頁以降

令和元年度第 1 回地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会議事録【概要】

令和元年 7 月 2 9 日（月） 14 時 00 分～15 時 00 分

下関市立市民病院 2 階 講堂

地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会

： 木下委員長、猪上委員、伊藤委員、杉浦委員

地方独立行政法人下関市立市民病院

： 田中理事長、上野副理事長、池永参与、法人事務局

下関市

： 九十九保健部長、徳王丸保健部次長、守永地域医療政策監、
八角地域医療課長、事務局

1. 開 会

2. 委員長互選

地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会条例第 5 条第 1 項の規定に基づき、委員長の互選が行われ、木下委員が委員長に選出された。

3. 議 題

(1)平成 30 年度に係る業務実績に関する評価結果（案）について
事 務 局 （「年度評価結果（案）」により説明）

＝質疑応答・意見等＝
なし

＝評価結果（案）に対する意見＝

地方独立行政法人法（平成 1 5 年法律第 1 1 8 号）第 2 8 条第 1 項の規定に基づく地方独立行政法人下関市立市民病院に係る「平成 3 0 年度に係る業務実績に関する評価結果（案）」については、適切である。

(2)第2期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果(案)及び中期目標期間終了時の検討結果(案)について

事務局	(「見込評価結果(案)及び終了時の検討結果(案)」により説明)
=質疑応答・意見等=	
評価委員	<u>第4 財務 病床利用率について</u> 病床利用率が低いのがとても気になる。 令和元年の病床利用率の目標が67%はかなり低いと思う。 これが急に70%、75%になると、病棟の看護師は大変になると思うが、病床利用率の目標が67%というのはどうなのか。 やはり、80%、85%でどこも必死でやってる中、市民病院のこの率はどうなのか。
法人	実は67%と言う数字は、休床しているベッドも含んだ数字で、実際は70%台である。 これでも低いと思うので、新入院患者数を増やすことで率を上げようという取組をしている。 毎年、新入院患者数は徐々に増えているが、それでも追いつかない。 看護必要度は、稼働率を上げると下がってしまうので、それとの兼ね合いを見ながら、病床利用率を上げる方向で、今いろいろと努力をしているところである。 今年度は是非、80%ぐらいは達成したいと考えている。
評価委員	<u>第4 財務 消費税対策について</u> 10月1日から消費税が10%に上がるが、その辺の影響はないのか。
法人	病院の経営等に、どのように影響するのか。 来年度の診療報酬改定で消費税のことは考えて頂けるものと思っている。 また、市民病院は現状、薬品の仕入がまだ使った分だけ支払うというスタイル(SPDシステム)になっていない。 このため、仕入れた分は全部払わないといけなく、使わない分は残っていくという状況のため、まず薬品の仕入の検討を考えている。
評価委員	<u><参考 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画></u> <u>収支改善の取組について</u> 「給与費、材料費の増加と電子カルテシステム」が赤字の要因の

法人

一つという指摘がある。

給与費、材料費は、どちらかというところ今後上がる傾向にあると思うし、電子カルテシステムの償却期間は不明だが、当分掛かってくると思う。

先ほどの病床利用率の向上等は努力されるということだが、法人の努力だけで黒字に出来るレベルの話なのか。

全く無理な話であれば、的外れな指摘のような気がするが、市民病院としてはどういう見込みをされているのかお聞きしたい。

給与費、材料費、設備費の増加により赤字となったのは、病床利用率が低いために赤字体質になっていると思う。

平成 29 年度まで 2 年続けて黒字だったのは、冬場に沢山の患者が入院したことで、病床利用率が一時的に上がった時期が何か月間か続いたことによる。

去年は暖冬だったので、それが無かった。

暖冬であっても耐えられるような、病床利用率の高い運営をしていけば、黒字になると見込んでいる。

＝見込評価結果（案）及び終了時の検討結果（案）に対する意見＝

1 地方独立行政法人法第 28 条第 1 項の規定に基づく地方独立行政法人下関市立市民病院に係る「第 2 期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果（案）」については、適切である。

ただし、健全かつ安定した経営を維持するため、病床利用率の向上を図るよう法人に働きかけること。

2 地方独立行政法人法第 30 条第 1 項の規定に基づく地方独立行政法人下関市立市民病院に係る「第 2 期中期目標期間終了時の検討結果（案）」については、適切である。

(3)第 3 期中期目標（案）について

事務局

(「第 3 期中期目標（案）」により説明)

評価委員

◆地域医療構想について

地域医療構想は中期目標期間の 4 年間で変化がありそうな状況なのか。進んでいるのか、進んでいないのか、そのままなのか。

このままでは、下関医療圏は同規模の急性期病院 4 つが現状のまままで変わらないのではないか。

事務局

少子高齢化で必ず、患者数は減ってくるし、やはり職員の採用も、人手不足で困難となる中、下関市は調整会議において、協議をしているので、今後どのようなことになるのかと思っている。

今、ご指摘いただいた地域医療構想調整会議は、県から委託を受けて、下関市で実施している。

4つ病院とは、急性期の2次輪番病院のことと思うが、その他にも回復期や慢性期の病院を含めて調整会議の中で議論を進めている。

下関市の全体の構想については、引き続き、調整会議で議論する。

中期目標は地方独立行政法人の役割等を規定するもので、若干位置づけは違うが、当然、市民病院も地域医療構想の中で担う役割があると思う。

＝第3期中期目標（案）に対する意見＝

地方独立行政法人法第25条第1項の規定に基づく地方独立行政法人下関市立市民病院第3期中期目標（案）については、適切である。

4. 閉 会

了